

橋町の見どころ

まちの歴史シリーズ ⑨

橋町HP

<https://tachibana-net.jp>

歴史・史跡

発行：橋町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和5年3月1日
責任者：前田 信俊
事務局：橋公民館 22-3884

今回の案内は

鳴瀬区長 角 寛治さん

ここは、長崎街道の両側
にできた宿場町タイ。
昔の六角川は船の行き来
が盛んで、鳴瀬には船着
き場があったとバイ。



クイズ

江戸時代鍋島藩の殿様が休憩した場所はどこ？

ながさきかいどう しゆくば
長崎街道の宿場町

なるせしゆく

鳴瀬宿 (鳴瀬)

●「宿」って何ね？

街道沿いに設けられた宿街のことタイ。

●鳴瀬^①にも宿のあったと？

旅人の宿はあったろうバッテン、大名や上級
役人の宿がなかったので、西岸寺^②が代用さ
れたらしかね。

●いつの頃の宿場？

江戸時代、長崎街道^③にあった宿場タイ。

●長崎街道って橋バ通つとったと？

ずーっと昔から（注）街道^④の橋バ通つとった
と。そいが、いつの間にか武雄のほうサン移
つた^⑤と。

（注）奈良時代頃からの街道を古代官道といいます。

●なして鳴瀬って言うと？

鳴瀬には六角川の港^⑥があって、農産物とか
特産のカメ・などが船積されとった。商品問屋
が並んでいて、たいへん繁昌しとったラシカ。
今でも港の石垣や、街並みがわずかに残っ
うね。名前の由来は右に!!

鳴瀬宿の場所（赤丸のところ）



★印番号の解説

★①鳴瀬の地名

鳴瀬の地名は、音、「潮の満ち引きの時に瀬が鳴く」ということから、鳴瀬と付けられたんだ。江戸時代は「成瀬」の字が使われたんだよ。宿場のあとは、現地に看板が立っていて下の図が描かれているよ。（図は一部加筆しています。）



★②西岸寺

杵島山は佐賀藩主のおかりばで、西岸寺は藩主の休息所になっていました。（鳴瀬宿は佐賀本藩領）



本堂右側の入口は殿様の通用門で、鴨居や屋根に杏葉紋が付いているよ。トイレも残っている。



★③長崎街道と★④古代官道

・右図は「新・ふるさとの歴史散歩武雄」に添付された古代官道（赤色）と長崎街道（黒色）のルート図です。どちらも杵島山の麓を通っています。

古代官道

- ・長崎街道の前には、古代官道が主要道路でした。
- ・古代官道は、古墳時代から奈良時代頃にかけて、時の政権の命令で全国的に整備されたものです。
- ・今は武雄が栄えていますが、奈良時代（8世紀）から江戸時代半ば（18世紀）まで、千年もの長いあいだ、杵島山の麓は西海道の重要な場所にあり続けました。北方～橘がメインだったのです。

長崎街道

- ・江戸時代になって整備された街道です。
- ・長崎から小倉までの25宿、57里（約287km）

★⑤長崎街道の変更

- ・嬉野～北方間が、水害でたびたび交通止めになるので、享保年間（1716～1736）に武雄を通るルートに変わりました。

注）橘ルートも残りました。

クイズ答え 西岸寺



★⑥古地図の成瀬港

古地図と現在を比較してみました。

- ・左側は成瀬古地図（注）
 - ・右側は現在の鳴瀬
- 長崎街道と潮見川が一番近い所（鳴瀬味噌前）に船着場（赤色着色）があり、地図には、本藩領を示す「御蔵入」と書かれています。古地図は下記により検索できます。



注）古地図出典：[佐賀県立図書館 IIIF Viewer \(Mirador\) \(sagalibdb.jp\)](#) 古地図に地名等加工しています。

今回ご紹介した遺跡は『江戸時代』のものでした（古代官道は略）

時代区分	鎌倉時代		南北朝時代		室町時代	戦国時代	江戸時代		明治時代
新・ふるさと歴史散歩記載項目	鎌倉幕府成立。守護地頭による地方支配、橘氏の入部	元寇襲来と警備、恩賞要求と幕府の弱体化、少弐・大友の探題攻撃	建武の新政 南北朝時代と九州3つ巴の動乱の時代へ	室町幕府成立 応仁の乱、竜造寺の台頭	信長から秀吉へ。竜造寺勢力拡大と島原敗死。文禄・慶長の役	江戸幕府成立 佐賀藩は鍋島体制へ 佐賀本藩へ3部上地2度	江戸幕府安定政権、長崎警護とフェートン号事件、尊王攘夷へ	戊辰戦争と明治維新、近代化と殖産振興	
主な市内遺跡 赤書きは橘町	潮見城跡と館跡、潮見・山下・小野原・馬場・立岩等の中世遺跡 源頼朝御教書	潮見川開削と河童誓文石、渋江・中村・中橋氏館跡 塚崎庄が長島庄から分離	北肥戦史等による北部九州動乱、渋江 vs 後藤。塚崎庄拡大、武雄社、黒尾社	渋江氏勢力拡大と日鼓城の悲劇、後藤が竜造寺配下に肥前古窯跡と古武雄	潮見讓落城と鉄砲・丹宗堀 後藤が竜造寺配下に肥前古窯跡と古武雄	三方法郷（橘は本藩・蓮池・後藤領） 鳴瀬宿と御狩場、長崎街道	上野本窯・皿山窯跡 後藤鍋島藩の蘭書、大砲等 北方炭鉱	上野新・形右衛門、鳴瀬駅跡、櫛崎炭鉱 鉄道開通	